

インフォメーション

第 17 回 畑作雑草研究会 開催のお知らせ

第 17 回畑作雑草研究会を下記の要領で開催いたします。

今回は「マイナークロップ、特に薬用作物や雑穀における雑草管理の現状と技術開発の方向」として薬用作物や雑穀などの使用できる除草剤が少なく、除草が困難なマイナークロップ栽培の雑草問題を取り上げます。

近年、健康に対する関心の高まりとともに薬用作物や雑穀の需要が高まっていますが、これらの栽培技術はまだ確立されたとは言えません。これらの作物の栽培の安定化そして拡大は耕地の有効利用の観点からも求められているものの、使用できる除草剤が少ないことなどから雑草管理に多大な労力がかかっています。マイナークロップの雑草問題は、麦作のイネ科雑草、大豆作の難防除広葉雑草など、除草剤による防除が困難な難防除雑草問題に通じるものがあると考えられます。

今回の研究会では、まず、薬用作物をめぐる事情、実需側が期待する雑草防除技術について知識を深めます。次に薬用作物や雑穀栽培の産地の 2 つの県から、栽培の現状や雑草防除技術開発の取り組みなどについて話題提供していただきます。総合討論では、農薬登録の現状や除草剤による化学的防除、機械的防除、耕種的防除、さらにそれらを組み合わせた総合的雑草防除技術の開発方向について議論する計画です。

本研究会に参加ご希望の方は、氏名（ふりがな）および所属等を明記の上、**11 月 29 日**までに下記までお申し込みください（申込受付は **11 月 9 日**から開始します）。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日時：平成 27 年 12 月 3 日（木） 14：30～16：30

2. 場所：浅草ビューホテル（〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1
<http://www.viewhotels.co.jp/asakusa/>） TEL 03-3847-1111

- ・つくばエクスプレス「浅草駅」直結
- ・東京メトロ銀座線「田原町駅」徒歩 7 分
- ・都営浅草線「浅草駅」徒歩 10 分
- ・東武スカイツリーライン「浅草駅」徒歩 10 分

3. 内容

1) 薬用作物（生薬）をめぐる事情

栗原 眞（農林水産省生産局地域対策官）※窓口：金子

近年、漢方製剤・生薬は需要が伸びており、その原料である薬用作物は 8 割以上を中国からの輸入に依存。なお、中国では国内需要の高まりに加え、資源の生態環境の保全などの観点から、輸出を制限。このことから、日本国内での生産拡大や安定供給に期待すると

ともに、産地では、国内需要の拡大が見込まれる数少ない作物として、中山間地域の活性化につながる作物として、薬用作物に注目。ここでは、薬用作物の需要や生産の情勢、栽培振興に関わる支援策等について説明。

2) 薬用作物栽培への取り組みと課題

熊澤 広明（株式会社ツムラ 生薬研究所 栽培研究部 総合防除グループ）

ツムラは、薬用作物（生薬）を原料とし、医療用漢方エキス製剤を製造・販売している医薬品メーカーである。高品質な製品を製造するためには、安全な生薬の安定確保が重要である。薬用作物の栽培・普及には農薬が不可欠だが、マイナー作物のため登録農薬が充分とはいえない。弊社研究所では、農薬の予備的な試験を行っており、この結果を踏まえて植物調節剤研究協会を始めとする関係機関の協力を得て、農薬の登録に取り組んでいる。今回この取り組みについて紹介する。

3) 奈良県の薬用作物生産の現状と雑草管理等栽培管理の省力化に向けた課題

大谷正孝（奈良県農業研究開発センター薬草栽培ユニット）

奈良県は、ヤマトトウキ・ヤマトシャクヤクなど「大和物」と呼ばれる品質の良い国産生薬原料の伝統産地であったが、安価な中国産の輸入増加等により栽培の減少が続いてきた。そこで、薬用作物の産地再興のため、平成24年度より「漢方のメッカ推進プロジェクト」を進めている。その取り組みの状況と雑草管理の軽労化等栽培の省力化に向けた課題について紹介する。

4) 岩手県における薬用作物・雑穀の機械除草技術等の開発

高草木 雅人（岩手県農業研究センター県北農業研究所作物研究室）

岩手県北部では、中山間畑地での薬用作物と雑穀の栽培が盛んである。雑穀では無農薬栽培が行われており、除草作業の軽減が大きな課題であったことから、機械除草と機械移植の技術開発を行っているところである。また、薬用作物は登録除草剤が少なく、雑穀と同様に除草に多くの労力を要していることから、雑穀で開発した技術を活用した機械除草技術の検討を進めている。これら研究中の取り組みを紹介する。

5) 総合討論

司会 澁谷知子（農研機構 中央農業総合研究センター）

コメンテーター 岡本浩一郎（日本植物調節剤研究協会）

薬用作物や雑穀の雑草問題に関して、現状の課題を整理し、農薬登録、機械的防除、耕種的防除、さらにそれらを組み合わせた総合的雑草防除技術の開発方向について、総合討論を行う。都道府県関係者、農薬メーカー、大学、公益財団法人、国立研究開発法人等のそれぞれの立場からの積極的な発言を期待する。

4. 参加費

学生（会員・非会員問わず）：無料

雑草学会個人会員：¥1,000

雑草学会個人会員以外：¥2,000

お問い合わせ

〒305-8666 茨城県つくば市観音台 3-1-1

農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター 生産体系研究領域 澁谷知子

電子メール: tshibuya@affrc.go.jp（全角で表示しています。送信時には半角で入力して下さい）

【参加申し込み】

参加申し込みは以下のフォームからお願いします。

<http://wssj.jp/FormMail/hatazassou/mpmailec/form.cgi>

畑作雑草研究会は畑作における雑草管理技術に対する基礎研究から現地情報まで知見を共有・検討する場として、日本雑草学会学術研究部会の一つとして平成 15 年に設立しました。